

2013年9月愛媛大学大学院連合農学研究科学位記授与式 式辞

ただいま博士の学位を授与された16名の皆さんに心からお祝い申し上げます。皆さんは長年にわたって勉学と研究に打ち込み、研究者としての能力と見識を高め、着実な研究成果を挙げられました。本日の学位取得はその証であります。皆さんのこれまでの努力に対して心から敬意を表したいと思います。また、これまで熱意をもって指導されてきた教員の方々、研究生生活を支えてこられたご家族をはじめ関係者の皆さんにも敬意を表したいと思います。

今回、博士の学位を授与された16名すべてが外国人留学生です。その国籍は、ベトナム、バングラデシュ、ネパール、パプアニューギニア、フィリピン、タイ、インドネシア、中国、インドと9カ国にも及んでいます。皆さんは日本での慣れない生活には人知れぬ困難や苦労があったことだと思います。それを克服する原動力となったのは皆さんの高い目的意識や自分の国を愛する気持ちだったのではないのでしょうか。皆さんの中には、



すでに社会人として活躍されている方が多くおられますが、これから社会での活動が本格的に始まる方もいると思います。皆さんが学位論文としてまとめ上げた研究成果や、それに関連して得た専門的な知識や情報はもちろん掛け替えのない宝物であります。たとえ自覚していなくても、皆さんが体得したものはそれよりはるかに大きな広がりや深さをもっています。課題を解決するための飽くなき探究心、努力すれば困難は乗り越えられるという確信、研究の過程で見いだした独自の工夫や方法、あるいは人と意見交換や議論することの有効性、組織的な活動のなかで培われたコミュニケーション力や人間関係を築く能力など、必ずしも言葉では伝えられないような数々の知恵やノウハウはこれから社会で生きていく上で大きな財産になります。自信をもって社会に船出をしていただきたいと思います。

さて、愛媛大学連合農学研究科は今から28年前の1985年に設置されました。皆さんを含め540名以上の外国人留学生がこれまでに学位を授与されています。これはきわめて大きな実績です。皆さんの先輩たちはアジアを中心に世界に羽ばたき、それぞれの国において農学分野の研究者として、あるいは技術者として、また、行政や経済界の有能な人材として活躍しています。この実績はまことに輝かしいものであり、学長としてこのことを大いに誇りに感じています。皆さんも、これまでに培った知識や技能を大いに活かして、将来、国際的に活躍されることを期待しています。

日本では、2年半前に発生した東日本大震災は大きな被害をもたらした。また多くの皆さんが避難生活をしていました。また、福島第一原発の事故はこれまで経験したことのない大惨事となり、長期にわたる放射能汚染が懸念されています。先日、オリンピックが2020年に東京で開催されることが決定したという明るいニュースがもたらされましたが、東日本大震災からの復興が今後10年あるいはそれ以上の年月にわたって日本の最も重い課題であるのは間違いありません。地球規模におい

では、地球温暖化、化学物質による環境汚染、自然災害の増加、異常気象など、私たちが直面する人類史的課題は深刻さを増しています。

このような問題はいずれも複雑な要因が絡んでおり、その解決のための確かな道筋が見えていたとは言えません。このような状況にあって、未来への希望の光を灯し、問題解決の突破口を開くのは、皆さんのような若い研究者の鋭い問題意識と、それに基づく創造的な活動です。

皆さんの前に立ちはだかる課題は、地域に固有のものであると同時にグローバルな課題でもあります。問題解決のためには、共通の目的に向かって進んでいるという国境を越えた連帯感が重要です。そのような連帯感があれば国の間の垣根は自ずと低くなり、課題解決への糸口も見えてきます。

今回学位を取得された皆さんが、常に広い視野をもって国際社会で活躍されることを期待して、式辞といたします。

平成 25 年 9 月 18 日
愛媛大学長 柳澤康信

